

文字摺通信

第 79 号
2025年 1月 1日
発行:文字摺歴史文化社

謹賀新年、今年もよろしくお願いします増大号

＝昭和改修万世大路＝

栗子隧道県境まで行ってきました

昨年11月19日、福島市から見る吾妻山はうっすらと雪化粧。万世大路栗子峠もうっすらと雪化粧。そんな中、二ツ小屋隧道保存会決死隊（高橋事務局長、斎藤隆一会員と守谷）は栗子隧道まで行ってきました。右は助手席に乗った守谷が撮った写真です。左側は崖、ガードレールもない道をひたすら登りました。四駆の軽とはいえ、ヒヤヒヤのドライブです。正直生きた心地はしませんでした。ただ、救いは運転手の斎藤さんの腕と経験。この道を何度も往復し、道幅と車幅が同じような所でも平然と運転します。

「左側の下に大平宿駅がありました。」といわれて下を覗いても何も見えません。人が住んでいた痕跡は何もありません。万世大路が開通した明治14年頃は当然自動車も鉄道もなく、二ツ小屋隧道と栗子隧道の間に宿場町を作る必要がありました。移住者を募り、大平宿を作りましたが、自動車が通れる昭和の改修道路は、この写真を見てもわかるように、随分盛り土をして大平宿の上を通るようになりましたので、宿駅を利用する人もいなくなり、早い時期に廃村となったのです。炭を焼いても、福島まで売りに行くのは大滝宿が限界でした。新しい道路ができて便利になると、その途中は寂れます。昭和の改修により大平駅は廃村となり、昭和41年に東北ハイウェイ（現国道13号）ができると大滝宿は廃村に向いました。そして、今東北中央道路ができて、。。。。。

それにしてもこの道路が甦り、栗子隧道までこうして行けるのは、万世大路を守る会を主宰する岡部さんたちのお蔭です。その労苦は大変なものだと思います。

一つ峠を越えて下り坂になり、また登ると栗子隧道が見えてきました。昭和改修の栗子隧道と二ツ小屋隧道のファサード（建築物の真正面からみた表面）を比べてみると、昭和8年竣工の二ツ小屋隧道の方が昭和10年竣工の栗子隧道のファサードよりも素敵だと思いませんか？前者は隧道入口の両脇に柱のような飾りがありますが、後者はただ隧道入口、というだけのアッサリし

